

<b>事業名</b>		<b>大滝区観光客誘致事業</b>				所管部課係名 商工観光課商工観光係		
<b>I. 施策区分</b>								
<b>戦略1</b>		<b>健康産業の創造</b>						
<b>健康に寄与する産業の活性化</b>				<b>市民の健康増進に貢献する産業の活性化</b>				
①	地域産品・地域資源を活用した伊達ブランド商品の販路拡大	①	ポイントカードを活用した健康増進と経済循環	②	地域産品のPR・プロモーションによる地場産業の活性化	②	民間事業所等による伊達市民向け健康増進プログラムの展開	
③	伊達市観光物産館等での観光戦略の推進	③	市民の伊達野菜の認知度向上	④	民間企業による商品の開発支援	④	ひとり親、退職高齢者等の一次産業就業支援	
●⑤	大滝区における体験型観光の取組							
⑥	健康関連事業の起業支援							
<b>総合戦略の重要業績評価指標 (KPI)</b>		<b>大滝区における観光入込客数</b> 2014年度 (H26年度) 81万人→2019年度 (H31年度) 90万人						
<b>戦略2 定住促進のための環境整備</b>								
<b>雇用環境の向上と子育てにやさしいまちの実現</b>				<b>多様な人・世代の転入促進 (UJI Xターン支援)</b>				
①	若年者・女性の雇用環境の改善	①	ひとり親、若年者等の就労・自立支援	②	若年女性の定住支援	②	就労相談窓口におけるサポート	
③	遊びを通じた子育て環境の整備	<b>伊達を誇りに思うひとづくり</b>						
④	放課後児童クラブを活用した教育活動の実施	①	伊達市に住むことを誇りに思う意識の醸成	②	芸術・文化の小さな拠点づくり			
<b>移住希望者への情報提供</b>								
①	空き家情報の一元的な提供	<b>近隣自治体と連携した定住環境の整備</b>						
		①	近隣他市町との広域連携事業の推進					
<b>戦略3 生涯現役社会の実現</b>								
<b>時代に合った地域づくり、安全・安心な暮らしの実現</b>				<b>住み慣れた地域で自分らしく生活できるまちの実現</b>				
①	地域包括ケアシステムの構築	①	高齢者が気軽に集える場の創設	②	健康づくり・介護予防・認知症予防事業の推進	②	市民クラブ活動支援センター等によるコミュニティ活動の支援	
③		③	民間事業所による生涯現役社会実現に向けた取組の支援					
<b>II. 事業内容</b>								
<b>事業概要</b>		平成18年3月の市町村合併により旧大滝村が伊達市と編入合併し誕生した伊達市大滝区においては、山間部に位置していることもあり、人口減少が進んでいる。そこで、既存のクロスカントリースキーコース等を活用し、豊かな自然環境や観光資源を活かした交流人口の増加に向けた施策を行うことで、大滝区における地域活性化を図る。						
<b>新継区分</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 新規	<b>補助区分</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 補助	<b>事業期間</b>	開始	平成 27 年度	<b>実施形態</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託
	<input type="checkbox"/> 継続		<input type="checkbox"/> 単独		終了	平成 年度		<input checked="" type="checkbox"/> 団体への補助
		団体名 ( 大滝区観光振興協議会、だて観光協会 )		構成員 ( — )				
<b>決算状況</b>		予算額	13,735 千円	決算額	13,066 千円	うち	地方創生交付金	13,066 千円
		財源	国・道	地方債	その他	一般財源		
			13,066 千円	0 千円	0 千円	0 千円		
		<b>内訳</b>	①大滝区観光振興事業補助金	1,741,531円	(アドバイザー謝礼、パンフ制作、いきものさがしなど)			
			②大滝スポーツ合宿等誘致事業補助金	4,447,499円	(旅費、委託料、印刷製本費、広告宣伝費など)			
			③大滝歩くスキーコース看板設置工事	3,747,600円	(コース誘導看板の設置 15箇所)			
			④クロスカントリースキー等整備事業	3,129,300円	(クロカンセット75組、ノルディックポール50組)			
				13,065,930円				
<b>実施した内容</b>		①大滝区観光振興事業補助金 (1)ノルディックコースを活用した自然体験学習(約120名参加)、(2)大滝産そばの試食会、(3)大滝クロスカントリーコースマップの製作、(4)クロスカントリーコース樹木看板取付け など  ②大滝スポーツ合宿等誘致事業補助金 (1)作AC北海道ランナーズキャンプ(第1回～第3回)、(2)大滝クロスカントリースキー体験(講師 夏見 円)、(3)クロスカントリーキャンプスケータング技術講習in伊達大滝(講師 阿部 雅司、島田 武彦)、(4)ランナーズキャンプ、クロスカントリーキャンプパンフ制作、(5)北海道ランニング大会ガイド 2016広告  ③大滝歩くスキーコース看板設置工事(15箇所)  ④クロスカントリースキー等整備事業(クロカンセット75組、ノルディックポール50組)						

<b>III-1. 所管課の評価結果 (全体評価)</b>			
<b>必要性</b>	対応性	事業の結果が対象者(団体等)のニーズを満たしているか	○
	適切性	事業の目的自体が地方創生にとって適切なものであるか	○
	効率性	事業の目的を達成するにあたって、最小の費用(あるいは適切な費用)で事業が賅われているか	△
	有効性	生み出された効果が基本的方向や人口ビジョンに照らして効果が期待できるものか	○
	公平性	事業効果の受益や費用の負担が社会における多様な集団の間に公平に分配されているか	△
※評価基準		○ 妥当である    △ 概ね妥当である    × 妥当ではない	
<b>事業効果</b>	各個別事業の事業主体は異なるが、市、観光協会、民間事業者、住民が協同で実施したものであり、大滝区の地域活性化の第一歩に繋がったものと考えられる。 また、クロスカントリースキーコースを活用した事業については、新たに市民ランナーをターゲットにモニター合宿(ランナーズキャンプ)を実施したところ、予想を大幅に上回る申込み(90名の定員に対して約120名)があり、新たな誘客のツールとしての可能性が見い出せた。		
<b>今後の改善点</b>	様々な事業を展開するためには、やる気のある人材の確保が必要不可欠である。特に大滝区は人口減少が進んでいることもあり、人材が不足している。その問題を解決するために、平成28年度から大滝区で活動を行う「地域おこし協力隊」を活用したいと考えている。		
<b>将来的な自立の見通し</b>	地域の観光資源を磨き上げ、交流人口が増加することで「稼げる地域」となれば、民間が主体となり各事業を進めることが可能である。		
<b>その他</b>	クロスカントリーコースを活用した取り組みを推進するため、平成28年5月に「大滝ノルディックコース連絡協議会」を設立した。		

<b>III-2. 所管課の評価結果 (KPIの達成状況)</b>			
<b>実施計画の重要業績評価指標 (KPI)</b>		<b>観光客入込数: 900千人(H25)→905千人</b>	<b>評価結果</b> △
※評価基準		○ 達成済み    △ 達成する見込み    × 達成する見込みはない	
観光における取組みは効果が出てくるまで時間が掛かるが、明確なビジョンを掲げ、行政と地域が対話し、一体で取組むことで、少しずつ事業効果が現れてくる。観光を取り巻く環境の変化に対応しつつ、10年、20年という長いスパンでの人材育成や観光戦略が必要となる。			
※観光入込数: 726千人(H27)			

<b>IV. 事業結果を踏まえた企画課評価結果</b>			
<b>実施状況</b>	計画した事業が実施されているか	○ 問題なく実施している △ 社会経済情勢等の変化に伴う見直しが必要	<b>評価結果</b> ○
<b>重要業績評価指標 (KPI) の達成見通し</b>	現時点におけるKPIの達成状況	○ 目標達成が期待できる △ 今後の推移を見守る必要がある × 目標達成が困難である	
	取り組み後の効果の状況	○ 期待した効果が上がっている △ 部分的に効果が上がっている × まだ効果が見られない	<b>評価結果</b> ×
<b>事業の今後について</b>		追加等更に発展させる	
		★ 事業の継続	事業の中止    予定通り事業終了
<b>総合戦略の見直しの必要性</b>		見直し必要	★ 見直し不要
「健康に寄与する産業の活性化」を目指し、大滝区の豊かな自然を活かした体験型観光の推進施策として実施したものである。観光客入込数の伸びとしての効果が現れなかったが、ノルディックウォーキングの初心者教室やランナーズキャンプなどの合宿では、多くの参加を得て大滝区の活性化にも貢献しており、地方創生に効果があった事業と考える。そのため、総合戦略を推進するためには、この事業で整備したスキーコース等を有効に活用するイベント等、継続的な事業の実施が必要である。※KPIについては、北湯沢地区のホテルが改装のため一時休業したことが影響していると想定される。(H26.11～H27.6)			